

# CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エステムコート中川区尾頭橋三丁目Ⅱ	階数	地上11階
建設地	名古屋市中川区尾頭橋三丁目1002番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年7月30日
敷地面積	779 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	434 m <sup>2</sup>	確認日	2021年7月30日
延床面積	4,027 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.7** ★★☆☆☆☆

★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B-:★★ C:★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 62%
- ③上記+②以外の: 62%
- ④上記+: 62%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Qのスコア = 2.4

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

#### LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合 周辺環境に調和するように計画し、室内環境の快適性に配慮した。	その他
Q1 室内環境 24時間換気を採用し、シックハウス対策を講じました。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した仕上げ材を採用した。
Q3 室外環境(敷地内) 街並みに調和するように、外壁等の素材・色を決定しました。	
LR1 エネルギー 潜熱回収型ガス瞬間給湯器を採用しました。	LR2 資源・マテリアル 節湯型水栓を採用しました。
	LR3 敷地外環境 駐輪場を全戸数、駐車場を10%確保。緑地面積を10%以上確保しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される




### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)エステムコート中川区尾頭橋三丁目Ⅱ

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.2	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.3	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 2.7	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。